

ハマスズ

Dianemobius csikii (Bolivar)

バッタ目コオロギ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

全国的な希少種で、石川県においても生息地、個体数ともに少ない。自然環境に恵まれた海浜の指標種として重要であるが、土木工事により生息地が減少している。

形態

体長が7mm前後の小型のコオロギである。体色は、淡褐色ないし灰色で褐色の斑紋があり、砂浜の砂によく似ていて見つけにくい。脚には黒褐色の斑がある。

国内分布

本州、四国、九州から奄美諸島まで分布しているが、生息地は局地的である。

県内分布

加賀市、小松市、内灘町、志賀町の海浜において局地的に分布している。白山市では過去に旧白峰村の手取川流域で記録されている。

生態

成虫は年に2回発生し、6月から10月に見られるといわれるが、本県では8月から10月にしか確認されていない。海浜植物の多い砂浜に生息し、日中でも砂浜上で活動している。夜間、ビービーと、比較的大きな声で鳴く。

生息地の条件

海浜植物が多い自然に恵まれた砂浜海岸に生息する。

生存の危機

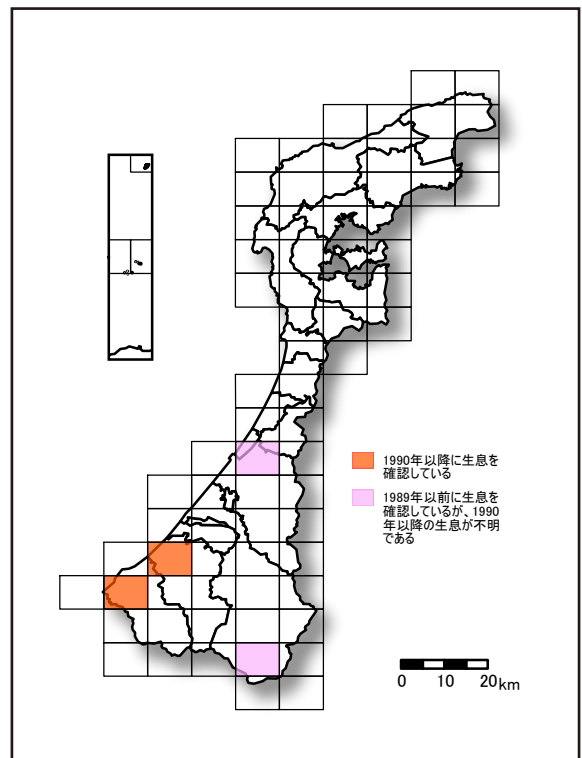
砂浜海岸は、護岸工事や土地造成の影響を受け、海浜植物帯が消滅あるいは狭小化している所が多く、本種は激減している。また、海浜への車の乗り入れや海岸浸食も本種の生息を脅かしている。さらに、防波堤下の個体は天候の荒れた日に波にさらわれる可能性が高い。海岸部においては、海浜植物帯に配慮した護岸工事を実施する必要がある。かつて本種は、手取川河川敷においても生息していたようであるが、河原の砂地帯が少なくなったことや土木工事の影響を受け、現在は確認されておらず、絶滅した可能性が高い。(A)

参考文献

市川顕彦ほか 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 日本直翅学会編. 北海道大学出版会. 札幌.



写真提供者: 富沢章



県内の分布